次に小梅議員の発言を許可いたします。
「小梅議員」。

「小梅議員」
早速、質問させて頂きます。
まず、１つ目です。商店街活性化策の提案に対する取り組みについてでございます。
地域の課題を教育大学函館校と住民が解決に向けて、一緒に考える共同の活動が進んでおります。そんな中、上町地区の商店街活性化を考える意見交換のワークショップの場で、学生が現状と課題を整理した、再生プランを発表いたしました。その内容は、１つ目、全世代向けの触れ合いサロンの設置、それから商店街に食材を調達、商店街で食材を調達して、郷土料理教室を開く。それと３番目に、寄来所を勉強スペースとして開放する事で生徒間の交流が生まれる。その３点でございました。その１番目と２番目の理由としましては、何か、あの、その生活を見ていてて、商店街が近い所に住んでいる人達でも、結構、車を使って遠くのスーパーまで買い物に行ってる。そういう現状を見まして、何か、人が集まるような目的を作ったら、そこに人が集まって来るんじゃないか、そこで、サロンの設置。それからそこで食材を求めて、料理を作るとなれば、それを目的に人が集まって来る。そしたら、あの、その繋がりでもって、利用者も商店街に集まって増えるんじゃないかって、そう考えたようでございます。
それから、勉強スペースの生徒の交流でございますけど。そうなると、自分達大学生がその高校生とかの先生として、江差にたまたま訪れるきっかけにもなるって、そういう目的もあったようでございます。等のそういう提案でしたが、そこに居た住民の人方の対応は、あの反応ですね、そういう意見を聞きながら、えぇそんな触れ合いサロンなんちゅう事は、全然自分達の中では考えた事もなかったが、とっても良いアイディアなので、すぐにでも出来るって、すごく前向きな意見が出されたそうでございます。そういう、新聞報道を私は関心しながら、期待を込めて読みました。これでいいことが出来るぞと思ってね、期待を込めて見てました。幸い、寄来所は、改装整備済みですし、綺麗ですし、商店街の賑わいと人々の交流も出来て、居場所作りとか、見守り、全てが、可能となるいい提案がなされているのに、その後、何か、それに対する動きがあんまり感じられず、その後の取り組みは、どうなっているのかなと思って、ちょっとお聞きしてみたいと思います。

（議長）
はい、町長。

「町　長」
小梅議員の質問にお答えします。

商店街活性化策の提案に対する取り組みについてのご質問でございますが、議員ご承知の通り、江差町は北海道教育大学及び北海道教育大学函館キャンパス校との間に、２０１６年６月に、まちづくりに関する総合協力協定を結び、締結し、地域の課題を大学と住民が一緒に考える取り組みとして、江差ソーシャルリニックと称し、これまで様々な活動を行っております。この度のご質問の法華寺通り商店街の活性化、とりわけ寄来所の利活用方策に関する各種の提案についても、これらの活動の一貫であり、議員から、議員からは、今後、町としてどの様に提案を捉え、また、関わって行くのかと言った主旨のご質問であろうかと思います。ご質問で触れられている、全世代向けの触れ合いサロンの開設や、商店街で食材を調達して郷土料理教室を開く。また、寄来所を勉強スペースに開放すれば、高校生同士の交流が生まれるなどについて、今の所、具体的な提案を受けている段階ではございません。一方で、本年度、まちづくりカフェの活動拠点が、市街地の空き店舗を活用し、整備される予定であり、これらの様々なアイディアにつきましては、寄来所のみならず、空き店舗が散見される市街地の商店街の振興策として、有効な手段の１つであると認識している事も事実であります。このため、今後のソーシャルクリニックの動向や、地域での議論の推移、また、具体的な計画が提案された段階で、行政、地域の役割を明確にしながら、提案の具現化に向けて、適宜対応して参りたいと思いますので、ご理解願えればと思います。

（議長）
いいですか。

「小梅議員」
はい。分かりました。

（議長）
じゃあ、２番目の質問ですか。

「小梅議員」
はい。期待してます。

（議長）
はい。２番目の質問。「小梅議員」。

「小梅議員」
そしたら、２番目に入ります。
２番目。民生委員と町内会の繋がりについてでございます。民生委員は、親身になっ

て問題解決に取り組みながら、プライバシーを尊重し、守秘義務もある中で、最も身近で頼りになる相談相手として、大きな役目を担っている、地域福祉には欠かせない重要な存在と認識しております。住み慣れた、今は住み慣れた地域でお互い支え合い、助け合える地域社会を実現するため仕組み基盤づくりに取り組んでいる中で、また町内会の存在とその活動も大きな役割を担っていると考えております。多くの情報を有する民生委員と町内会が別々の活動ではなくって、お互いに連携を図りながら、一体化する。その方がずっと活動もスムーズに進むんじゃないかなと思っております。だから、民生委員を町内会の役員の一人に位置付けることで、それが上手くいくのではないかって考えるんですけど、その点いかがお考えでしょうか。

（議長）
町長。

「町　長」
小梅議員の２問目、民生委員児童委員と町内会との繋がりに関するご質問にお答えいたします。
地域が抱える生活福祉課題は、少子高齢化や人口減少などを背景に深刻化し、行政を始めする関係機関、団体等の連携による住民に寄り添った見守りや支援を求めています。このような状況の中、民生児童委員につきましては、住民からの困り事や心配事に関する相談に応じ、地域の専門機関への繋ぎ役としての役割を担って頂いております。同様に町内会、自治会につきましても、地域の親睦や住民福祉の増進等、住民生活と密接な関わりの中で多大なご尽力を頂いており、双方の連携強化に対する認識は、議員と意を同じくするものでございます。
しかしながら議員がご提案されている民生児童委員を町内会役員へ位置付けることにつきましては、特に町内会、自治会が地域の主体的な判断により役員を選考されていることから、町として直接的に意見を申し述べる立場に無いものと考えております。町はこれまでも、関係者のご理解ご協力を頂き、地域の支えあい活動等を行っており、引き続き多様な団体が、互いの活動を理解し、連携を強化できるよう意を尽くして参りたいと思いますので、ご理解願えればと思います。

（議長）
はい。小梅議員。

「小梅議員」
はい。分かりました。私もこの質問をするときに、これはちょっと変だなと思いながら、思ってたんですけれども。実は昨年の１０月に、道町連の、町内会連合会のブロッ

ク大会、これは全道を４つに分けて、道南、道央、道北、道東と分けて、道南の大会が檜山の当番で、この江差町で開催されました。その時に渡島、檜山、胆振、あと後志の一部の町村からたくさんの方々がおいでになりまして、江差が当番だったものですから、私方も分科会に参加して、活動報告とか進行とかまとめとか全部とりまとめたんですが、その時に出される活発な意見。それから自分達のやってること。質問。ものすごい活発で、もう圧倒されました。そして、聞いてみたら、その言ってること、ほとんどの人が民生員だったんですね。町内会の会長さんだったり、副会長さんだったり、事務局だったりして。ほとんどの人、民生委員の人が多かったんです。ええっと思って、本当に関心しました。これが本当なんだなあって思いました。そして特に９月に地震があった後なので、その防災の事が凄かったんですね。例えば避難行動の名簿の事であろうが、それからあと洞爺や伊達の方から来ている人方は有珠山の、を経験していますので、ものすごくね私達の参考になるような意見がたくさん出されまして、圧倒されました。ああ、こういうふうな進め方で良いのかなと思って、それで民生委員と町内会の密接な関係、もう少し江差でもそういうのがあればなって、なればいいなって思ったんです。私方も町内会の活動、町内会の会議なんかも良く出ますけれども、民生委員さんの顔ってあんまり見えてなくて、やっぱり一体化していかなきゃ駄目なんだなって、そこですごく強い認識を持ちました。とっても活発でございました。それで、ちょっとこういうようなことを出しました。

　それでちょっとお聞きしますが、民生委員さんを決める時に、町内会の推薦とか承認みたいなものは要るんでしょうか。

（議長）

　町民福祉課長。

「町民福祉課長」

　はい。選考段階での手続きとしますと、町内会にはご相談はさせて頂くケースがほとんどかと思います。必ずしも町内会の推薦という位置付けは必要ないと考えています。以上です。

（議長）

　いいですね。

「小梅議員」

　はい。分かりました。ありがとうございました。

（議長）

小梅議員の一般質問を終わります。